

## 二酸化硫黄の測定結果(平成17年度)

大気中の二酸化硫黄は、大気汚染物質の中でも代表的な物質であります。主として重油等石油系燃料に含まれる硫黄分の燃焼により発生するもので、その主な発生源は、工場・事業場のばい煙発生施設です。

平成17年度に、二酸化硫黄について18測定局で測定した結果は、下表のとおりであり、これらを平成16年度と比較すると、全般的に横ばいの傾向にあります。

年平均値は、岐阜南部測定局の0.009ppmが最も高く、乗鞍測定局の0.000ppmが最も低い状況にありました。

なお、環境基準はすべての測定局で達成していました。

平成17年度二酸化硫黄測定結果

地域	測定局名	有効測定日数(日)	測定時間(時間)	年平均値(ppm)	1時間値が0.1ppmを超えた時間数とその割合		日平均値が0.04ppmを超えた日数とその割合		1時間値の最高値(ppm)	日平均値の2%除外値(ppm)	日平均値が0.04ppmを超えた日が2日以上連続したことの有無	長期的評価の適否	平成16年度	
					時間	%	日	%					年平均値(ppm)	長期的評価の適否
岐阜	岐阜中央	364	8686	0.003	0	0.0	0	0.0	0.047	0.009	無	○	0.005	○
	岐阜南部	362	8685	0.007	0	0.0	0	0.0	0.059	0.019	無	○	0.007	○
	岐阜北部	363	8705	0.005	0	0.0	0	0.0	0.049	0.010	無	○	0.004	○

	各務原	365	8709	0.005	0	0.0	0	0.0	0.041	0.009	無	○	0.005	○
	羽島	363	8712	0.006	0	0.0	0	0.0	0.064	0.012	無	○	0.004	○
	平均	/	/	0.005	/	/	/	/	/	/	/	/	0.005	/
西濃	大垣中央	365	8720	0.008	0	0.0	0	0.0	0.071	0.014	無	○	0.006	○
	大垣南部	356	8560	0.008	0	0.0	0	0.0	0.059	0.014	無	○	0.007	○
	大垣西部	352	8450	0.005	0	0.0	0	0.0	0.054	0.010	無	○	0.005	○
	大垣外濑	334	8136	0.004	0	0.0	0	0.0	0.049	0.009	無	○	0.004	○
	平均	/	/	0.006	/	/	/	/	/	/	/	/	0.006	/
	中濃	美濃加茂	361	8680	0.005	0	0.0	0	0.0	0.042	0.009	無	○	0.004
東濃	土岐	349	8384	0.005	0	0.0	0	0.0	0.037	0.009	無	○	0.004	○
	瑞浪	355	8505	0.005	0	0.0	0	0.0	0.046	0.010	無	○	0.004	○
	笠原	353	8525	0.006	0	0.0	0	0.0	0.039	0.010	無	○	0.006	○
	中津川	360	8640	0.009	0	0.0	0	0.0	0.099	0.018	無	○	0.007	○

	中津川柳	361	8669	0.007	0	0.0	0	0.0	0.078	0.014	無	○	0.007	○
	中津川上金	359	8608	0.004	0	0.0	0	0.0	0.037	0.008	無	○	0.005	○
	平均	/	/	0.006	/	/	/	/	/	/	/	/	0.006	/
飛驒	高山	354	8485	0.004	0	0.0	0	0.0	0.013	0.006	無	○	0.003	○
	乗鞍	363	8667	0.000	0	0.0	0	0.0	0.026	0.003	無	非適用	0.001	/
	平均	/	/	0.002	/	/	/	/	/	/	/	/	0.002	/
県平均	/	/	0.005	/	/	/	/	/	/	/	/	/	0.005	/

備考)

1 県地球環境課調べ

2 環境基準の長期的評価に適合しているとは、測定時間が年間 6,000 時間以上あり、日平均値が 0.04ppm を超えた日が 2 日以上連続せず、かつ、日平均値が 0.04ppm を超えた日数が年間を通じて 2% 以下であることを示す。

3 「長期的評価の適否」欄の「-」は、年間の測定時間が 6,000 時間に満たないことを示す。

○過去 10 年間の経年変化

二酸化硫黄の年平均値の経年変化

